

授 業 科 目

1 授業科目

本研究科で開講される授業科目は、第3章の科目配当表のとおりです。個々の科目間の関係や科目内容の詳細については、シラバスを参照してください。

科目配当表には①授業科目、②単位数、③配当期（開講年度、前学期、後学期、通年）、④担当教員名、などが記載されています。隔年で開講される科目があるので、履修申告にあたっては注意してください。

2 修了必要科目

授業科目は選択科目および選択必修科目から構成されます。特に、選択必修科目として配当している情報環境学創造型プロジェクト、情報環境学特別研究、情報環境学調査研究のうち、どれかを（例えば、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB）を履修する必要があります。どの科目を履修するかについては、研究指導教員と相談の上、決定してください。場合によっては、混在して（例えば、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠBと情報環境学特別研究ⅡA・ⅡB）履修することもできます。また、研究成果としての知的財産権の保護が求められますので、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの履修者は、知的財産特論の履修を推奨します。

3 配当期

①前学期

4月1日から8月31日までを前学期とし、前学期期間中に15週にわたって授業が行われる科目を前学期科目といたします。

②後学期

9月1日から翌年3月31日までを後学期とし、後学期期間中に15週にわたって授業が行われる科目を後学期科目といたします。

授 業

授業などの年間スケジュールは、学生ポータルサイト、もしくは学内掲示板（以下「掲示等」という。）を参照してください。変更などの通知はすべて掲示等により行うので、必ず掲示等を確認してください。

1 授業時間

本研究科で開講される授業時間は90分で行われます。各時限の開始、終了時刻は下表のとおりになります。また、本研究科では「昼夜開講制」と呼ぶ制度を設けています。これは昼間の授業時間帯のほかに、夜間の授業時間帯（下表の5、6時限目）にも昼間と同様の授業を開講し、夜間（ときには昼間）に講義を受講することによって大学院を修了することを可能とする制度です。これは近年の経済社会の発展や技術革新の進展等により、大学院に対する社会の要請が多様化しており、この要請に応えるものです。

時限の開始、終了時刻

時限	1	2	3	4	5	6
時間	9:30 } 11:10	11:30 } 13:10	13:30 } 15:10	15:30 } 17:10	17:30 } 19:10	19:30 } 21:10

各時限とも授業の途中で10分程度の休憩時間を設けます。

2 休講

- (1) 授業担当教員の止むを得ない事情により授業が休講になる場合は、基本的には前日までに担当教員から連絡、または掲示等で知らせます。
- (2) 学校行事を行う場合の休講は、掲示等で知らせます。（年間行事日程参照）
- (3) 交通ストライキ等の場合の授業の取扱い

首都圏JR各線、北総線、都営浅草線、京成押上線、京浜急行線、東武野田線、新京成線が、ストライキや事故により不通と報道され、千葉ニュータウンキャンパスへのアクセスが著しく困難な場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- ①午前6時のNHKニュースにおいて不通の場合は、午前中の授業は休講。
- ②午前9時のNHKニュースにおいても不通の場合は終日休講。

なお、地震、台風などの自然災害により不測の事態が発生した場合は、休講になる場合があります。

3 補講

補講授業を行う場合は、担当教員や掲示等により指示があります。

4 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。この場合は授業時間割表もしくは掲示等により周知します。

5 特別講義

通常の授業とは別に、学外等から講師を招いて特別なテーマについて臨時に講義を行うことがあります。この場合は掲示等により周知します。

6 授業への出席

履修する科目の授業には毎回出席することが必要です。本研究科における多くの授業は、積み重ねにより目標を達成するように構成されていますから、安易に授業を欠席することは、履修の目的に反することになります。やむを得ない理由で授業を欠席しなければならない場合には、担当教員、クラスメイト等により欠席した授業内容を早めに補完しなくてはなりません。

7 再履修

履修した授業科目の単位を修得できず、もう一度その科目の履修をやり直すことを「再履修」といいます。再履修科目の履修申告・受講等については、新規履修の場合と同様です。

履修申告

1. 授業科目を履修するには、必ず履修申告をしなければなりません。履修していない科目を受講しても単位は認定されません。
2. 履修申告に当たっては、指導教員の指導を受け、履修する科目を選定し、指導教員の承認を得てください。

履修及び単位認定

Ⅰ 授業科目の履修について

本研究科では、次の授業科目を履修することができます。

(1) 自分の所属する専攻の授業科目

指導教員の承認が必要です。

(2) 他の研究科・専攻の授業科目

指導教員が教育・研究の遂行上有益と認めたときは、自分の専攻に担当されていない本学大学院の他研究科（工学研究科、理工学研究科、未来科学研究科）の授業科目（必修、選択を問わず）を履修することができます。なお、他研究科（工学研究科、理工学研究科、未来科学研究科）担当科目の履修にあたっては、当該の授業科目を担当する教員の承認を受け、所定の履修申告手続きを行うことが必要です。

(3) 学部の授業科目

指導教員が教育・研究の遂行上有益と認めたときは、単位未修得の学部（工学部、理工学部、未来科学部を含む）の授業科目を履修することができます。ただし、当該学部の授業科目を担当する教員の承認を受け、所定の履修申告手続きを行うことが必要です。

学部の科目で、評価B以上（70点以上）の科目の単位は、修了単位に加算されます。成績評価Cの科目は成績通知書・成績証明書には記載されますが、修了単位としては認定されません。

(4) 単位互換協定締結校等他大学大学院の授業科目

指導教員が教育・研究の遂行上有益と認めたときは、「首都大学院コンソーシアム」に加盟している、あるいは「東京理工系4大学」として単位互換を協定している他大学の大学院の授業科目を履修することができます。ただし、当該大学院の承認を受け、本研究科に対して所定の履修申告手続きが必要で

す。「首都大学院コンソーシアム」に加盟している大学は次のとおりです。

共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京電機大学、
東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学

単位互換協定を締結している「東京理工系4大学」は次のとおりです。

東京電機大学、工学院大学、芝浦工業大学、東京都市大学

また、単位互換協定を締結していない他大学大学院または外国の大学院（国際学術・教育協定大学を含む）において履修した授業科目について修得した単位は、本研究科委員会が教育上有益と認められたものは、本研究科における授業科目の履修により修得したものと

して認定します。認定希望者は「単位認定申請書」に、当該大学院の成績証明書および講義要目を添付して、事務部へ申し出てください。

2 単位の認定について

本研究科においては、次の場合に単位が認定されます。

(1) 履修した授業科目の試験等に合格した場合

(2) 入学前に修得した単位

入学前に他大学院等で修得した単位のうち、本研究科委員会が教育上有益と認められたものは、本研究科に入学した後の本研究科における授業科目の履修により修得したものと認定します。認定希望者は「単位認定申請書」に、当該大学院等の最終成績証明書および講義要目を添付して、指定期日までに事務部へ申し出てください。

(3) 入学前歴における修学活動等

本研究科の授業科目について十分な知識を修得していると考えられるときは、入学後その授業科目の担当教員に申請し、試問を受けて合格すれば、その授業科目の単位の認定を受ける場合があります。(この項は、学部で大学院レベルの授業を受講した者、高度な公的資格を有する者、研究所等での研究歴あるいは研究指導歴のある入学者を対象としています。)

試験及び成績評価

1 試験

試験は、原則としてその授業の終了する学期末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって試験に代えることがあります。なお、試験は履修申告した授業科目以外は受験することができません。

2 成績評価とGPA

各科目の評点はS、A、B、C、D、－及びR（単位認定科目）、の評価で表記されます。成績証明書にはS、A、B、C、Rの評価は表記されますが、D、－は表記されません。

GPAは、各科目の評価ポイント（GP）を与え、それに科目の単位数を掛けます。これを各学期終了時に、当該学期において履修（登録）したすべての科目について求め、それらの総和を計算します。その結果を履修（登録）した科目の総単位数で割ったものがGPAです。評点と評価およびポイント（GP）の関係は下記のようになっています。

◎平成23年度以前入学生

評 点	評 価	当該科目の ポイント(GP)
90 ≤ 評点 ≤ 100	合 格	S 4
80 ≤ 評点 < 90		A 4
70 ≤ 評点 < 80		B 3
60 ≤ 評点 < 70		C 2
0 ≤ 評点 < 60	D	0
－（放棄）	－	0

◎平成24年度以降入学生

評 点	評 価	当該科目の ポイント(GP)
90 ≤ 評点 ≤ 100	合 格	S 4
80 ≤ 評点 < 90		A 3
70 ≤ 評点 < 80		B 2
60 ≤ 評点 < 70		C 1
0 ≤ 評点 < 60	D	0
－（放棄）	－	0

その他の評価

R	認定（他大学等の単位を認定した場合）
※または*	履修中（現在履修中の場合）

$$GPA = \frac{\text{（各科目の単位数} \times \text{当該科目で得たポイント）の合計}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}}$$

注 1. GPAの値は小数点第 4 位を四捨五入した値です。

注2. 修了要件とはならない科目及び単位認定科目は含まれません。

注3. GPAのポイントは、成績通知書および成績証明書に記載します。

Dおよび放棄科目は0ポイントとなるため、放棄しない計画的な履修が結果的にGPAを上げることになります。

修士課程の修了要件

情報環境学専攻を修了するには、2年以上在学し(在学期間については特例あり)、所要科目の単位を36単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文またはこれに代わる研究成果の審査及び最終試験に合格しなければなりません。「情報環境学特別研究ⅡB」の研究成果は修士論文として、「情報環境学創造型プロジェクトⅡB」「情報環境学調査研究ⅡB」の研究成果は、修士論文に代わる研究成果として扱われます。

1 修了単位

修士課程修了に必要な36単位には、次の単位を含めることができますが、下記(1)～(3)を満たす必要があります。

(1) 選択必修科目(研究科目)の修得単位

①情報環境学創造型プロジェクト(ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB)各2単位

情報環境学特別研究(ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB)各2単位

情報環境学調査研究(ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB)各1単位

※いずれかの科目(12科目)のうちⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの順序で4科目(4～8単位)を修得すること。なお、上記科目は混在履修が可能です。

(混在履修例)

1年 前学期「情報環境学調査研究ⅠA」、後学期「情報環境学特別研究ⅠB」を履修

2年 前学期「情報環境学調査研究ⅡA」、後学期「情報環境学創造型プロジェクトⅡB」を履修

②情報環境学セミナー(ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB)各2単位

情報環境学グループ輪講(ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB)各1単位

※いずれかの科目(8科目)のうちⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの順序で4科目(4～8単位)を修得すること。

※「情報環境学創造型プロジェクト」又は「情報環境学特別研究」を履修する場合は、「情報環境学セミナー」を履修すること。

・「情報環境学調査研究」を履修する場合は、「情報環境学グループ輪講」若しくは「情報環境学セミナー」を履修すること。

(2) 選択科目(専門科目)の修得単位

「教育システム工学部門」「情報ネットワーク工学部門」「知能情報工学部門」「マルチメディア工学部門」「医用福祉工学部門」「空間デザイン部門」「コミュニケーション工学部門」「情報科学部門」に配当されている科目から8単位以上を修得すること。

(3) 上記(1)及び(2)以外の科目の修得単位

①専門基礎科目

②本研究科に配当されている科目以外の下記の科目

[但し、合計10単位を上限とし、選択科目(専門科目)の修了単位に含むことはできません。修了単位の計算にあたっては十分注意してください。]

- ・他研究科配当科目
- ・大学院入学後の履修により成績評価がB以上の学部の授業科目
- ・単位互換協定等、他大学院の授業科目
- ・情報環境学研究科委員会が認定した正規履修以外（単位認定科目等）の授業科目

2 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

本研究科の選択必修科目である情報環境学特別研究、情報環境学創造型プロジェクトおよび情報環境学調査研究は、最終試験として、情報環境学特別研究は修士論文を、情報環境学創造型プロジェクトは成果報告書と成果物を、情報環境学調査研究は調査研究報告書を提出し審査を受けなければなりません。修士修了要件として共通する項目は、以下のとおりです。

1. 関係する学問領域において修士としての確かな基礎学力を習得している。
2. 設定した研究課題に際し、適切な調査方法、研究方法および開発手順により、調査、実験、制作等を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされている。
3. 論文あるいは報告書の記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっている。
4. 問題点の的確な把握と整理、判断、解決までの実践的問題解決能力が身につけている。

また、各選択必修科目についての審査方法と審査基準を以下に示します。

情報環境学特別研究

- ・論文審査および学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は公聴会形式で行い、これとは別に、主査・副査の2名の指導教員による口答試問試験に合格しなければならない。
- ・関係する研究領域において、その内容が新規性、有用性、信頼性を有している。

情報環境学創造型プロジェクト

- ・成果物および報告書の審査および学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は公聴会形式で行い、これとは別に、主査・副査の2名の指導教員による口答諮問試験に合格しなければならない。
- ・本研究はモノ（ハードウェア、ソフトウェアを問わず）作りに重点が置かれており、関係する研究領域において、その成果物が新規性、有用性、信頼性を有している。

情報環境学調査研究

- ・報告書の審査および学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は公聴会形式で行い、これとは別に、指導教員1名による口答試問試験に合格しなければならない。
- ・関係する研究領域において、その調査内容が有用性、信頼性を有している。

上記の最終試験に加えて、当該科目は各学期ごとにその進捗状況を指導教員により評価さ

れます。なお、学術雑誌への論文の採録や、特許出願などの知的財産権保護手続き、設計競技における入選などは、客観性を持つ評価として審査において考慮されます。

3 在学期間についての特例

修士課程を修了するためには2年以上在学することが必要ですが、優れた業績をあげた者は、以下の条件を充たすことにより、2年未満の在学で修了することができます。

- (1) 在学期間が1年以上であること。
- (2) 修了所要単位36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果の審査及び最終試験に合格していること。
- (3) 在学期間中に履修申告した全科目を通してのGPAが、平成23年度以前の入学者は3.850以上、平成24年度以降の入学者は3.500以上であること。
- (4) 学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）が採録されたか、または採録が確定していること。

希望者は、修了を希望する学期の前までに、指導教員に相談してください。

学 位

1 情報環境学研究科が授与できる学位の種類

修士課程を修了した者については、本学大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類及びそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

情報環境学専攻 修士（情報環境学）

2 修士論文等の提出

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出手続き等は次のとおりです。

(1) 修士論文

- a. 2年次のはじめに、指導教員と相談の上、情報環境学特別研究Ⅱとして実施する研究テーマを決定してください。
- b. 修士論文の体裁、提出部数、提出期限は、指導教員に問い合わせ、指示に従ってください。
- c. 大学保存用「修士論文」1部をPDFファイルに変換したファイルを所定期日までに提出してください。
- d. 「修士論文要旨」をA4版4頁にまとめたものを提出してください。

(2) 修士論文に代わる研究成果

- e. 2年次のはじめに、指導教員と相談の上、情報環境学創造型プロジェクトⅡ、情報環境学調査研究Ⅱとして実施する研究テーマを決定してください。
- f. 研究成果報告書の体裁（成果物を含む）、提出形態・部数、提出期限は研究テーマごとに異なります。指導教員の指示に従ってください。
- g. 大学保存用「研究成果報告書」1部をPDFファイルに変換したファイルを所定期日までに提出してください。
- h. 「研究成果報告書要旨」をA4版4頁にまとめたものを提出してください。

(3) 修士論文等の保存公開

- i. 「修士論文」及び「研究成果報告書」は大学で編集し、保存公開します。
- j. 「修士論文要旨」及び「研究成果報告書要旨」は要旨集として刊行します。
- k. 「修士論文」及び「研究成果報告書」に関する著作権については、大学に対して、保存公開のために必要な権利を認めていただくことになります。

ただし、学会での発表が予定されている論文等、知的所有権に係る内容等について、

保存公開が適当でない当事者と指導教員が認めたものについては、別途取り扱うこととなります。

2013 学生要覧

第3章

教員一覧・
授業科目配当表

情報環境学専攻教員一覧

氏名	職名	研究部門
		主な研究テーマ
伊勢 史郎	教授	コミュニケーション工学部門/空間デザイン部門 三次元音場を厳密に再現する装置の開発、協調と競争により集団を活性化する音響空間デザイン、視覚障害者の空間概念習得を支援する装置の開発、ヒトのコミュニケーションの本質を探る認知科学研究、聴覚に関わるミラーニューロンの実証研究
		情報ネットワーク工学部門 非同期式プロセッサの高速化、高機能化を目指してより高速な非同期式組み合わせ回路構成法の研究、同期式とは異なる非同期式独自のプロセッサアーキテクチャの研究
大山 実	教授	知能情報工学部門/コミュニケーション工学部門 情報通信サービスの創生に関する研究、情報検索に関する研究、視線入力に関する研究
		情報ネットワーク工学部門/教育システム工学部門 ディベンダブルネットワーク、広域ブロードバンドワイヤレスネットワーク、やる気を喚起する学習支援システム
近藤 通朗	教授	情報科学部門/知能情報工学部門 論理プログラムの代数的意味論、Abstract Algebraic Logic、非古典論理学の代数的研究
		知能情報工学部門/情報科学部門 ソフトウェア工学、要求分析手法と支援システム、図式プログラミング環境、オブジェクト指向プログラムの理解・評価などの研究
穴戸 真	教授	教育システム工学部門 デジタル機器を利用した教材作成・指導法の考案、視線計測による教材の効果測定、電子書籍・教科書の開発、英語学習におけるE-Learningの利用法研究
		コミュニケーション工学部門/教育システム工学部門 マルチモーダルな感性の分析・モデル化、個人に適用可能なメディア空間の構築法、多感覚感性の相互作用を計測するための生理指標とその応用
鈴木 秀一	教授	情報ネットワーク工学部門/情報科学部門 高速な暗号の開発とその安全性の研究、擬似乱数の生成、検定と応用技術の研究、暗号理論にもとづくセキュリティ基礎技術の研究など
		知能情報工学部門 物体の3次元形状や位置の認識、自律的な移動ロボットの視覚システム、各種センサーによる空間の知能化
鶴田 節夫	教授	知能情報工学部門 ユビキタスに代表される分散リアルタイム情報システム技術、知的エージェントによるその知能化、自律分散化技術
		情報科学部門/教育システム工学部門 三次元立体生成ソフトウェアの開発と教育への応用、接触面圧力分布計測システムの開発と応用、赤外線レーザ光弾性法によるシリコンおよびGaAsの応力評価、画像処理を用いた高精度三次元計測
根本 幾	教授	医用福祉工学部門/マルチメディア工学部門 脳による音楽の認識の脳磁界を用いた研究、生体信号の統計的処理、生体のモデリング、複素数値化したニューロンモデルの振舞やそれを連想記憶に応用したときの能力に関する研究
		マルチメディア工学部門 高速マイクロプロセッサ・高速メモリの研究、高速高精度ADコンバータの研究
宮保 憲治 ☆	教授	情報ネットワーク工学部門 次世代IP通信網と最適な通信プロトコルの研究、超高速ノード構成法の研究、アドホックネットワークの研究、ユビキタス・センサーネットワークの研究、GRIDコンピューティング技術の研究、高速・高機能WEBアプリケーションの研究

☆：専攻主任

情報環境学専攻教員一覧

氏名	職名	研究部門
		主な研究テーマ
武川 直樹	教授	コミュニケーション工学部門／マルチメディア工学部門
		ヒューマンコンピュータインタラクションの研究、インタラクションデザイン、人の気持ちを理解し表情に表すコンピュータ、映像対話システムの設計と評価、視線・表情の認識、3次元コンピュータビジョン、画像認識
吉村 彰	教授	空間デザイン部門
		学校建築に関する研究、情報環境に関する研究、人間の行動と心理・空間に関する研究
和田 雄次	教授	知能情報工学部門
		Webインテリジェンス技術、データ・Web・テキスト・マイニング技術、Webデータベース技術、Linux/xxxBSD応用技術、データウェアハウス技術（OLAP）
栗城 真也	特別専任教授	医用福祉工学部門
		ブレインマシンインターフェース、脳情報の読み取り、高次脳機能解析、ニューロイメージング（無侵襲脳計測）に基づき、ひとの脳活動による情報を計測・解析して工学的に応用する研究
中田 毅	特別専任教授	知能情報工学部門
		無侵襲流量センサの開発、流体システムの異常診断技術、駆動系のコンピュータ応用設計支援システム
伊藤 俊介	准教授	空間デザイン部門
		子どもの心理・行動・発達と構築環境の関わり、社会的装置としてみた学校空間、認知地図とナビゲーション、環境とユーザ、社会・文化の関係全般
川勝 真喜	准教授	医用福祉工学部門
		生体磁気計測に関する研究、生体信号の処理と解析に関する研究、高次脳機能の計測に関する研究
小濱 隆司	准教授	教育システム工学部門／マルチメディア工学部門
		在宅医療ネットワークに関する研究、画像・音声・音楽信号処理に関する研究、教育情報支援システムに関する研究
島田 尊正	准教授	医用福祉工学部門
		ニューラルネットワークを用いた生体信号の解析と自動診断、医用画像解析、機能的MRIおよび脳波による脳活動の計測
鈴木 真	准教授	医用福祉工学部門
		乳幼児の計測と育児工学、育児情報コンテンツ開発、福祉ロボット用インタフェース、映像提示による脳活動計測
見正 秀彦	准教授	情報科学部門
		整数論の暗号理論、符号理論への応用、解析的整数論
宮川 治	准教授	教育システム工学部門／情報ネットワーク工学部門
		ソフトウェア再利用設計、ソフトウェア品質特性、高品質ソフトウェア設計方法、ソフトウェアメトリクスの研究
八横 博史	准教授	情報ネットワーク工学部門／知能情報工学部門
		トラスト交渉技術に基づくセキュアな情報サービス提供に関する研究、情報セキュリティと人間社会の安全保障、クラウドにおけるマルチエージェントシミュレーション技術の開発
大崎 淳史	助教	空間デザイン部門
		バリアフリー環境に関する研究、学校の情報伝達に関する研究、住空間の認知に関する研究
木村 敦	助教	コミュニケーション工学部門
		消費者の購買行動や食行動に関する実験的研究、コミュニケーションに関する研究、感性情報認知に関する研究

平成25年度 情報環境学専攻 専門基礎・研究科目配当表

部 門	25 年度 開講 予定	26 年度 開講 予定	授業科目名	単位数		配当期		担当教員名	備 考	英文授業科目名	
				必 修	選 択	前 期	後 期				
専門基礎科目	選択科目	○	○	国際技術者英語 I A		1	○	Bossieux, Eric	45分授業	Advanced Course in English for Engineers I A	
		○	○	国際技術者英語 I B		1	○			Advanced Course in English for Engineers I B	
		○	○	国際技術者英語 II A		1	○			Advanced Course in English for Engineers II A	
		○	○	国際技術者英語 II B		1	○			Advanced Course in English for Engineers II B	
		○		知的財産特論		2	○	宮保 憲治 岡田 賢治	Intellectual Property for Information Environment		
		○	○	MOT概論		2	○	柏崎 尚也 他	Introduction to Management of Technology		
研究科目	選択必修科目	○	○	情報環境学セミナー I A	2	○	○	島田 尊正	* 1)	Information Environment Seminar I A	
		○	○	情報環境学セミナー I B	2	○	○			Information Environment Seminar I B	
		○	○	情報環境学セミナー II A	2	○	○	鈴木 秀一		Information Environment Seminar II A	
		○	○	情報環境学セミナー II B	2	○	○			Information Environment Seminar II B	
		○	○	情報環境学グループ輪講 I A	1	○	○	研究指導教員 (専攻主任 他)		Information Environment Group Seminar I A	
		○	○	情報環境学グループ輪講 I B	1	○	○			Information Environment Group Seminar I B	
		○	○	情報環境学グループ輪講 II A	1	○	○			Information Environment Group Seminar II A	
		○	○	情報環境学グループ輪講 II B	1	○	○			Information Environment Group Seminar II B	
		○	○	情報環境学創造型プロジェクト I A	2	○	○	研究指導教員 (専攻主任 他)		混在履修可	Creative Project for Information Environment I A
		○	○	情報環境学創造型プロジェクト I B	2	○	○				Creative Project for Information Environment I B
		○	○	情報環境学創造型プロジェクト II A	2	○	○				Creative Project for Information Environment II A
		○	○	情報環境学創造型プロジェクト II B	2	○	○				Creative Project for Information Environment II B
		○	○	情報環境学特別研究 I A	2	○	○				Special Study for Information Environment I A
		○	○	情報環境学特別研究 I B	2	○	○				Special Study for Information Environment I B
		○	○	情報環境学特別研究 II A	2	○	○				Special Study for Information Environment II A
		○	○	情報環境学特別研究 II B	2	○	○				Special Study for Information Environment II B
		○	○	情報環境学調査研究 I A	1	○	○				Survey and Study for Information Environment I A
		○	○	情報環境学調査研究 I B	1	○	○				Survey and Study for Information Environment I B
○	○	情報環境学調査研究 II A	1	○	○	Survey and Study for Information Environment II A					
○	○	情報環境学調査研究 II B	1	○	○	Survey and Study for Information Environment II B					

* 1) 情報環境学創造型プロジェクトまたは情報環境学特別研究の履修者は、対応する期の情報環境学セミナーを履修すること
情報環境学調査研究の履修者は、対応する期の情報環境学グループ輪講もしくは情報環境学セミナーを履修すること

○：開講科目

平成25年度 情報環境学専攻 専門科目配当表

部 門	25 年度 開講 予定	26 年度 開講 予定	授業科目名	単位数		配当期		担当教員名	備 考	英文授業科目名		
				必修	選択	前期	後期					
専 門 科 目	選 択 科 目	○	リファクタリング特論		2		○	宮川 治		Refactoring		
		教 育 シ ス テ ム 工 学	○	インターネット工学特論		2		○	小林 浩		Internet Engineering	
			○	ネットワークセキュリティ工学特論		2		○	八横 博史		Network Security Engineering	
			○	ネットワーク工学特論		2		○	宮保 憲治		Communication Networks	
			○	高信頼化アーキテクチャ		2		○	上野 洋一郎		Dependable Architecture	
			○	ユビキタスネットワークサービス設計学特論		2		○	宮保 憲治 小川 猛志		Ubiquitous network service design technology	
		情 報 ネ ッ ト ワ ー ク 工 学	○	データベース工学特論		2		○	大山 実		Database System	
			○	分散システム技術特論		2		○	鶴田 節夫		Advanced Technology of Distributed Processing	
			○	知能システム工学		2		○	築山 俊史		Intelligent Systems	
			○	言語処理特論		2		○	畑田 稔		Advanced Technology for Translator Construction	
			○	高信頼IT特論		2		○	渡邊 坦 吉高 淳夫		Dependable Distributed Information Technology	
			○	データベース設計工学		2		○	和田 雄次		Database System Design	
		工 学	○	複合機能システムのデザイン		2		○	中田 毅		Design for System with Complex Functions	
			マ ル チ メ デ ィ ア	○	情報処理ハードウェア概論		2		○	宮原 一紀		Introduction to Information Processing Hardware
				○	現代信号処理		2		○	小濱 隆司		Modern Digital Signal Processing
	○	社会音響学特論			2		○	伊勢 史郎		Social Acoustics		
	医 用 福 祉 工 学	○	生体情報システムのデザイン		2		○	根本 幾 島田 尊正		Biological Designs for Information Processing		
		○	生体計測と情報処理		2		○	鈴木 真 川勝 真喜		Biomedical Measurement and Information Processing		
		○	医用福祉システム特論		2		○	鈴木 真		Advanced Lecture on Systems for Medicine and Human Care		
		○	脳情報工学特論		2		○	栗城 眞也		Brain Information Processing		
	空 間 デ ザ ィ ン	○	地域施設の空間計画論		2		○	吉村 彰		Regional Community Facilities Planning And Design		
		○	生活環境学		2		○	橋 弘志		Theory of Living Information Environment Design		
		○	ヒューマンメディア環境論		2		○	柴田 滝也		Human Media Design		
		○	生態学的デザイン論		2		○	伊藤 俊介		Ecological Psychology and Design		
		○	建築構造学特論		2		○	立花 正彦		Advance building construction system		
		○	特別設計演習A		2		○	吉村 彰 柴田 滝也		Advanced Architectural Design A		
		○	特別設計演習B		2		○	吉村 彰 柴田 滝也 伊藤 俊介		Advanced Architectural Design B		
		○	建築実務インターンシップA		4		○	【前・後学期】 吉村 彰 柴田 滝也 【後学期のみ】 伊藤 俊介	随時	Internship in Architectural Practice A		
		○	建築実務インターンシップB		4		○	【前・後学期】 吉村 彰 柴田 滝也 【後学期のみ】 伊藤 俊介	随時	Internship in Architectural Practice B		
		シ ョ ウ ン 工 学	○	コミュニケーションインターフェース特論		2		○	武川 直樹		Communication Interface Engineering	
	情 報 科 学		○	暗号理論		2		○	鈴木 秀一		Cryptography	
		○	記号論理		2		○	近藤 通朗		Symbolic Logic		
		○	整数論		2		○	見正 秀彦		Number Theory		
○		3次元CAD特論		2		○	新津 靖		Three Dimensional Computer-Aided Design			

○：開講科目